

熱中症に注意

こんな症状があったら熱中症を疑いましょう

軽

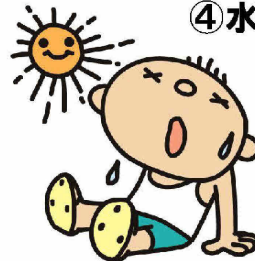
めまい
立ちくらみ
筋肉痛
汗がとまらない



- ① 涼しい日陰やクーラーの効いた室内などへ移動する
- ② 衣類をゆるめて休む
- ③ 身体を冷やす
氷や冷たい水でぬらしたタオルを手足に当てる。

中

頭痛
吐き気
体がだるい(倦怠感)
虚脱感



- ④ 水分を補給する
水分を自力で摂取できなければ救急隊を要請

重

意識がない
けいれん
高い体温である
呼びかけに対し返事がおかしい
まっすぐに歩けない、走れない



- すぐに救急隊を要請
救急隊を待つ間、涼しい場所へ移動し身体を冷やす。



高齢者の注意点

☆ のどがかわかなくても水分補給

☆ 部屋の温度をこまめに測る

- 高齢者は温度に対する感覚が弱くなるために、室内でも熱中症になることがあります。
- 室内に温度計を置き、こまめに水分を補給することを心掛けましょう。

幼児は特に注意

○ 幼児は体温調節機能が十分発達していないため、特に注意が必要です。

○ 晴れた日には、地面に近いほど気温が高くなるため、幼児は大人以上に暑い環境にいます。

熱中症は予防が大切です

熱中症は気温などの環境条件だけではなく、人間の体調や暑さに対する慣れなどが影響して起こります。気温が高くない日でも、湿度が高い・風が弱い日や、体が暑さに慣れていない時は注意が必要です。

こんな日は熱中症に注意

- 気温が高い
- 湿度が高い
- 風が弱い
- 急に暑くなった

こんな人は特に注意

- 高齢者・幼児
- 肥満の人
- 体調の悪い人
- 持病のある人
- 暑さに慣れていない人

熱中症の予防法

☆体調を整える

睡眠不足や風邪気味など、体調の悪いときは暑い日中の外出や運動は控えましょう。

☆服装に注意

通気性の良い服を着て、外出時には帽子や日傘を使用しましょう。

☆こまめに水分補給

「のどが乾いた」と感じたときは、すでにかかなりの水分不足になっていることが多いものです。定期的に少しずつ水分を補給しましょう。特に夏場にはスポーツドリンクを飲むのがおすすめです。

☆こまめに休憩

屋外での活動時には日陰等を利用してこまめに休憩

熱中症を疑ったとき

緊急事態であることを認識し、重症の場合は救急車を呼ぶことはもちろん、現場ですぐに身体を冷やし始めることが必要です。

①涼しい日陰やクーラーの効いた室内などへ移動する

②衣類をゆるめて休む

③身体を冷やす

氷や冷たい水でぬらしたタオルを手足に当てる。

④水分を補給する

このとき、水分だけでなく0.1パーセント程度の塩水又はスポーツドリンクを少しずつ何回にも分けて補給する。

⑤医療機関へ運ぶ

※急に暑くなった日や、活動の初日などは特に注意

人間の体は暑い環境で作業を始めてから3～4日経たないと、体温調節が上手になっけません。このため、急に暑くなった日や、久しぶりに暑い環境で活動したときには体温調節が上手いかず、熱中症で倒れる人が多くなっています。

※汗をかいた時には塩分の補給も忘れずに